徒然草

兼好法師

　　　　　　また

「に、またといものありて、人を食らなる。」

と、人の言けるに、

「山ならねども、これらにも、の上がりて、またに成りて、人とることはなるものを。」

と言者ありけるを、何仏とかや、連歌しける法師の、のほとりにありけるが聞きて、「独り歩かん身は、心すべきことにこそ。」と思けるころしも、ある所にて夜ふくるまで連歌して、ただ独り帰りけるに、のにて、音に聞きしまた、たず足下へふと寄りきて、やがてかきつくままに、首のほどを食んとす。

－35－